

令和7年度 日本NP学会 将来構想委員会アンケート結果（報告）

1. 調査の背景と目的

日本NP学会は、制度・教育・研究などNPの将来に関わる重要なテーマを検討し、学会に提言を行うことを目的として、今年度より「将来構想委員会」を設立した。その活動の第一歩として、会員の皆さまの率直なご意見を集めることが不可欠であると考え、会員を対象にしたアンケート調査を実施した。

本報告書は、その調査結果を取りまとめたものである。日頃感じておられること、学会に期待していること、将来に必要と思われる取り組みなどを広く把握し、会員の皆様の声を広く集めることで、今後の本学会の活動の方向性に反映することを目指している。

以上の経緯を踏まえ、本報告ではその結果をまとめて報告する。
なお、会員の皆様よりいただいた多数の自由記載の内容については、本学会理事会のみで共有し、今後の学会運営に活用していく。

2. 調査方法

調査対象：日本NP学会会員 1,130 名（正会員 1,027 名＋学生会員 103 名）
（2025 年 8 月 20 日時点）

調査期間：2025 年 7 月 28 日（月）17:30 ～ 9 月 2 日（火） 18:00

依頼方法：学会事務局より会員へメール送信（2 回）

1 回目: 2025 年 7 月 28 日（月）、2 回目: 2025 年 8 月 20 日（水）

回答数：363 名（回答率 32.1%）

倫理的配慮：自由意志による参加、匿名での回答

3. 結果（サマリー）

回答者の属性（n=363）		
所属する施設	病院が 83.5%と大半であり、大学・クリニック・訪問看護ステーションは 1 割未満と少数であった。	図 1
現在の活動に近い職種	診療看護師（NP）が 81.3%と大半であり、看護師 12.9%、医師 1.9%と少数であった。	図 2
所属する地域	関東が 42.1%と大半であり、中部 15.2%、東北 11.0%、九州 10.7%は 1 割程度であった。	図 3
主な診療科・専門領域	心臓血管外科、救急科、麻酔科、外科、循環器内科、総合診療科が上位であった。 <回答内容を診療科・領域ごとに分類> - 救急科：13.5% - 麻酔科：9.1% - 集中治療科（ICU/CCU 含む）：7.2% - 循環器内科：6.6% - 消化器科（内科・外科含む）：3.3% - 糖尿病・内分泌内科：2.5% - 小児科：1.7% - その他内科（総合内科、一般内科など）：8.5% - 心臓血管外科：9.1% - 脳神経外科：4.7% - 整形外科：3.9% - その他外科（消化器外科、呼吸器外科など）：6.3% - 在宅・地域医療（訪問診療・看護、療養病棟など）：6.1% - 看護学・教育（大学、NP 教育、基礎看護など）：3.3% - その他（明記なし、研修中など）：15.7%	
経験年数(NP 資格取得後) (n=295)	0～2 年、3～5 年、6～10 年、10 年以上で均等分布していた。	図 4

活動実態（n=295）		
日常業務における主な役割	診療・処置、患者ケア、連携・教育といった複数領域で活動している。 <主要回答を関連領域ごとに分類> 1. 診療・処置関連 - 診療の補助（93.9%） - 手術／手技の補助（60.7%） - 救急対応（62.0%） 2. 患者ケア・生活支援 - 患者・家族へのケア（69.5%） - 患者・家族への教育（50.5%） - 慢性疾患の管理（55.9%） - 予防医療の実施（26.1%） 3. 連携・教育・研究 - 多職種との連携（86.8%） - 教育・研究（54.9%）	図 5
認知度と評価（n=363）		
所属施設における 診療看護師（NP）の認知度	約 78%（約 8 割） の施設である程度の認知度があることが明らかになった。 <主要回答を区分ごとに分類> - よく知られており役割も理解（42.1%） - 名前は知られているが役割は理解されていない（36.1%） - 一部の職種のみが知っている（15.2%） - あまり知られていない（6.6%）	図 6

診療看護師(NP)への期待と課題 (n=363)

診療看護師 (NP) が他職種から期待されていること

診療・処置の支援、患者・家族ケア、連携・教育的役割の3領域に大別でき、特に「医師の業務負担軽減」「多職種連携」「急変時対応」が中心を占めていた。

図 7

<主要回答を関連領域ごとに分類>

1. 診療・処置関連

- 医師の業務負担の軽減 (80.7%)
- 急変時や緊急時の初期対応 (65.6%)
- 診断的な視点や判断力 (59.2%)
- 専門的なスキルによる質の高い看護提供 (51.5%)

2. 患者ケア・生活支援

- 看護師の業務負担の軽減 (47.9%)
- 患者・家族への説明や支援の充実 (47.9%)

3. 連携・教育・研究

- 多職種連携の調整役としての機能 (73.3%)
- 教育的役割 (看護師や新人への指導) (60.6%)
- 管理的な視点や判断力 (52.9%)

日本 NP 学会に関するニーズ (n=363)

日本 NP 学会に期待すること

会員の期待は「法的・制度的基盤の確立 (88.4%)」に最も集中し、「社会的認知度向上 (60.6%)」「ガイドライン策定 (57.3%)」「継続教育・研修 (51.8%)」が続いた。

<主要回答を記載>

- 法的・制度的な位置づけの確立 (88.4%)
- 社会的認知度向上に向けた広報 (60.6%)
- 診療実践に関するガイドライン策定 (57.3%)
- 継続教育・研修プログラムの提供 (51.8%)
- キャリア開発支援 (36.4%)
- 研究活動や学会発表の支援 (29.8%)
- ネットワーク構築や学会交流の活性化 (26.2%)
- 国際連携の推進 (18.5%)
- 現状で特に期待はない (0.6%)
- その他 (大学院拡充、NP 教育、地域活動など) (0.3%)

図 9

学術集会に関するニーズ (n=363)

取り上げてほしいセッション・テーマ

希望されるテーマは「診療実践とアウトカム (61.7%)」が最多であり、次いで「政策提言・制度化 (54.0%)」「多職種連携 (40.5%)」が続いた。診療実践と制度的基盤、さらにチーム医療に関する議論が特に求められており、同時に研究・教育スキルや国際的視点へのニーズも確認された。

<主要回答を分類>

1. 診療実践・臨床アウトカム

- 診療実践とアウトカム (61.7%)
- 急性期医療における NP の役割 (31.7%)
- 慢性疾患管理 (糖尿病・高血圧など) (21.8%)
- 精神科・小児科・緩和ケア領域での NP の実践 (9.1%)

2. 多職種連携・地域包括ケア

- 多職種連携 (医師・看護師・薬剤師など) (40.5%)
- 地域包括ケア・在宅医療における NP の役割 (36.9%)
- 地域連携・救急医療体制の中での NP 活用 (30.6%)

3. 制度・政策・国際比較

- 政策提言・制度化に関するセッション (54.0%)
- 高度実践看護師 (APN) 国際比較 (36.4%)

4. 研究・学術スキル

- 研究デザイン・統計手法セミナー (32.5%)
- 英語論文執筆・国際学会発表スキル (24.2%)

5. 教育・キャリア形成

- 教育・研修プログラムの開発と標準化 (19.6%)
- NP のキャリア形成・リーダーシップ育成 (27.0%)
- 患者教育・セルフマネジメント支援 (28.7%)

図 14

図1

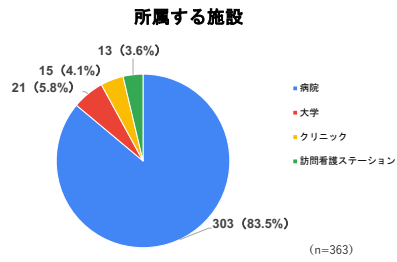


図2

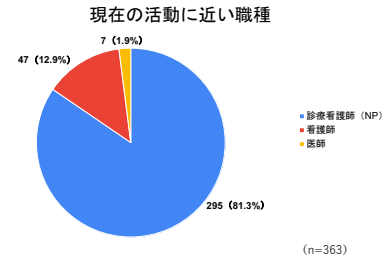


図3

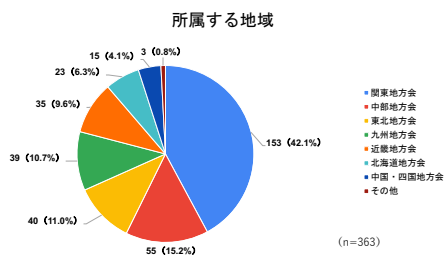


図4

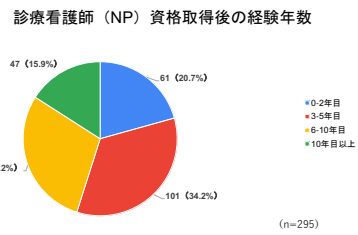


図5

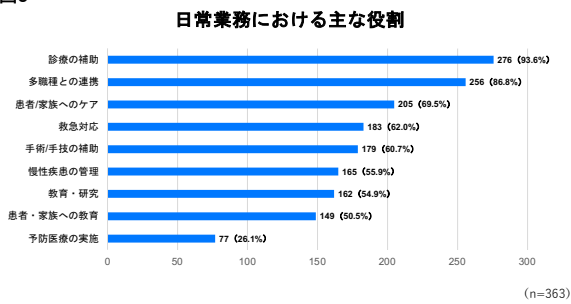


図6

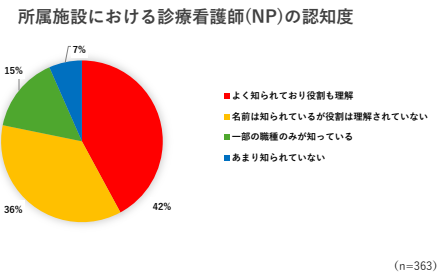


図7

診療看護師(NP)が他職種から期待されていること

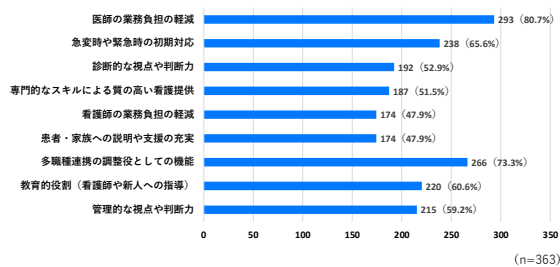


図9

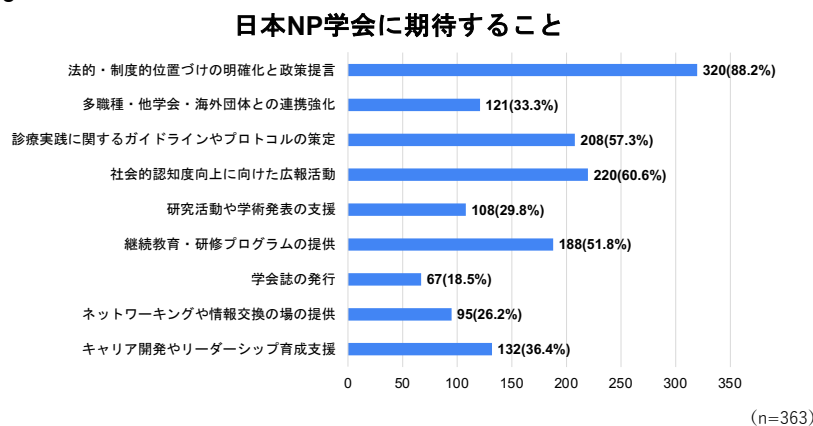


図14 学術集会で取り上げてほしいセッション・テーマ

